

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	医療心理科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義
科 目 名	発達心理学		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対 象 学 年	2年		学期及び曜時間	前期 水曜2限	教室名	5校舎8階
担 当 教 員	小笹智代 上江洲友亮	実務経験と その関連資格				
<p>《授業科目における学習内容》</p> <p>発達心理学とは、人がこの世に生を受けたときからその一生を終えるまでの間に起こる生涯の心身の発達の変化についての特徴や一般的な理論を探究する心理学領域のひとつである。本講義では、主に胎児期にはじまり、乳児期・幼児期・児童期・思春期・青年期ごろまでの発達のな変化やその特徴を中心に、関連する発達理論、身体・認知・知覚・運動・遊び・社会性などの面の様相についても解説する。</p>						
<p>《成績評価の方法と基準》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席評価点20% ・平常評価点10% ・試験素点70% 						
<p>《使用教材(教科書)及び参考図書》</p> <p>教科書は使用せず、スライドおよび適宜資料の配布によって講義を行う。</p>						
<p>《授業外における学習方法》</p> <p>講義後に配布するふり返しシートや感想シートに記入し、復習を行うこと</p>						
<p>《履修に当たっての留意点》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義後に配布するふり返しシートや感想シートに記入し、復習を行うこと ・関連する映画視聴を行う場合、感想シートへの記入を行い、平常評価の参考とする 						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	「発達心理学」の研究領域や目的、研究の歴史について理解する。「発達」の定義を知り、関連する語義や領域について理解し、説明できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド ・配布資料 ・ふり返しシート 		
		各コマにおける授業予定	発達心理学とはなにか(定義)/研究対象の3領域(身体、認知、社会・情緒)/発達心理学の研究史/生涯発達心理学とは/発達研究法/ワーク(自分の発達史をふりかえる)			
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	発達心理学の主要な理論について理解する。各発達段階とのつながりや関連性についてイメージできるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド ・配布資料 ・ふり返しシート 	前回の資料やふり返しシートに目を通していき、授業内容の理解を深めること	
		各コマにおける授業予定	ピアジェの認知発達理論/ヴィゴツキーの社会文化理論/エリクソンの心理社会的発達理論/スキナー、バンデューラの行動主義および社会的学習理論/気質研究/情報処理モデル/生涯発達心理学の位置づけ			
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	胎児期の発達について理解し、発生から身体・知覚の発達および環境要因の影響の受けやすさについて理解し、説明できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド ・配布資料 ・ふり返しシート 	前回の資料やふり返しシートに目を通していき、授業内容の理解を深めること	
		各コマにおける授業予定	胎児期の発達(脳・知覚・身体)/薬物やストレス、栄養と成長・発達との関連/母のストレスと胎児の気質/セーフティネット/演習(ライフストーリーワーク)			
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳児期の感覚・運動面の発達について理解し、関連する発達理論について学び、説明できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド ・配布資料 ・ふり返しシート 	前回の資料やふり返しシートに目を通していき、授業内容の理解を深めること	
		各コマにおける授業予定	新生児反射の役割と消失/乳児期の感覚の発達/乳児期の運動の発達/ピアジェの認知発達理論/演習(泣きやすい乳児と育児不安)			
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	乳児期の情動・愛着面の発達について理解し、関連する発達理論について学び、説明できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド ・配布資料 ・ふり返しシート 	前回の資料やふり返しシートに目を通していき、授業内容の理解を深めること	
		各コマにおける授業予定	乳児期の情動の発達/愛着とはなにか/愛着の形成プロセス/ボウルビィとエインズワースの実験/愛着とのちの発達の関連/演習(分離不安の強い乳児)			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児期の発達を理解するうえで関連する新版K式発達検査の概要を学ぶ。幼児期の運動・認知・言語の発達を理解し、説明できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド ・配布資料 ・ふり返しシート 	前回の資料やふり返しシートに目を通していき、授業内容の理解を深めること
	各コマにおける授業予定	新版K式発達検査と発達指数(DQ)/幼児期の運動の発達/幼児期の認知能力の発達/幼児期の言語能力の発達/			
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	幼児期の情緒・社会性の発達について学ぶ。幼児期の課題や問題行動について演習を通じて理解を深め、説明できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド ・配布資料 ・ふり返しシート 	前回の資料やふり返しシートに目を通していき、授業内容の理解を深めること
	各コマにおける授業予定	幼児期の社会性の発達/幼児期の情緒面の発達/幼児期の遊び/心の理論とは/演習(幼児期の問題行動を発達の的に理解する)			
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	児童(学童)期の認知能力の発達について学ぶ。演習を通じて学童期の学習面の困難さについて理解を深め説明できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド ・配布資料 ・ふり返しシート 	前回の資料やふり返しシートに目を通していき、授業内容の理解を深めること
	各コマにおける授業予定	実行機能の発達/読み書きや算数能力/メタ認知とは/抽象概念の獲得/演習(1年生の壁・集中が続かない児童)			
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	児童(学童)期の社会性の発達について学ぶ。演習を通じて学童期の情緒面・社会性の困難さについて理解を深め説明できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド ・配布資料 ・ふり返しシート 	前回の資料やふり返しシートに目を通していき、授業内容の理解を深めること
	各コマにおける授業予定	人間関係の変化・仲間関係の発達/社会的スキルの習得/学童期の課題とリスク/演習(「インサイドヘッド」に学ぶ情緒発達)			
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	学童期の発達において重要な要素である「知能」について、その定義を理解し、主要な理論とどのように研究されてきたかを理解し説明できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド ・配布資料 ・ふり返しシート 	前回の資料やふり返しシートに目を通していき、授業内容の理解を深めること
	各コマにおける授業予定	知能とはなにか(定義)/知能研究の歴史/主要な知能理論(スピアマン、サーストン、キャッテル・ホーン、キャロル、ガードナー)/環境・文化と知能との関連			
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	知能検査の使用目的や作成の歴史、種類や何を測定するかを理解し、演習のなかで検査所見の読み方を学び説明できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド ・配布資料 ・ふり返しシート 	前回の資料やふり返しシートに目を通していき、授業内容の理解を深めること
	各コマにおける授業予定	知能検査とは/知能検査作成の歴史/知能検査の種類/ウェクスラー式知能検査について/WISCの構造と下位項目/演習(所見の読み方)			
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	思春期に特徴的な変化について、身体と脳という構造面を中心に理解を深め説明できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド ・配布資料 ・ふり返しシート 	前回の資料やふり返しシートに目を通していき、授業内容の理解を深めること
	各コマにおける授業予定	第2次性徴と体の変化/脳神経ネットワークの変容/思春期における発達リスク/演習(反抗期と成長)			
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	思春期の発達について、認知・情動・社会性の側面から理解を深め説明できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド ・配布資料 ・ふり返しシート 	前回の資料やふり返しシートに目を通していき、授業内容の理解を深めること
	各コマにおける授業予定	抽象的思考の獲得/情動調整の難しさ/アイデンティティ(自我同一性)の獲得/演習(「インサイドヘッド2」に学ぶ思春期の不安定さ)			
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	青年期の発達について、就労や社会参加の側面から理解を深め説明できるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド ・配布資料 ・ふり返しシート 	前回の資料やふり返しシートに目を通していき、授業内容の理解を深めること
	各コマにおける授業予定	職業選択とアイデンティティ/対人関係と恋愛/社会的自立と依存/演習(将来・進路・就労への不安を語る学生)			
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	講義のまとめとふり返し	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド ・配布資料 ・ふり返しシート 	前回の資料やふり返しシートに目を通していき、授業内容の理解を深めること
	各コマにおける授業予定	前期講義内容のふり返し/胎児期、乳児期、幼児期、児童期、思春期、青年期それぞれの発達/			